

伝えたいことが、そこにある。

多くの人に伝わりやすいよう、シンプルなデザインを心掛けました。
白・黒・赤の3色で表現し、文字には赤を使用して視覚的なインパクトを持たせています。
文字の背後に陶磁器のイラストを配置し、遊び心を感じられるよう工夫しました。

見佐波 陶器まつり

2025
第67回

あなたの「好き」が
ここにある。

4/29^火~5/5^日
9:00~17:00 ※初日(4.29)は混雑が予想されます。

抽選会開催
お買い上げ2000円
ごとに抽選券を一枚贈呈。

本会場 **やきもの公園**
第2会場 **波佐見・有田インター駐車場**

駐車場料金(公設)
一般車 700円/回
バス 2000円/回

シャトルバス **有料**
有田⇄波佐見(会場)
乗車料金500円(税込) 高校生以下無料

主催 波佐見陶器まつり協会(波佐見振興会) TEL.0956-95-2214 協力 長崎県立波佐見高等学校 美術・工芸科
波佐見陶器まつりホームページ <https://hasamitokimaturi.com> インスタグラム 波佐見陶器まつり公式 https://www.instagram.com/fusami_tokimaturifest/

2025波佐見陶器まつりポスターデザイン

ここに注目!

米価高騰 “緊急アンケート”

はさみ

No.172 令和7年8月号

議会だより



議会情報

今月の
はさみの人

後藤 知哉さん
波佐見高校 美術・工芸科 3年
(日宇中学出身)



4月23日 長寿支援課の所管事務調査を行いました

1. 高齢者タクシー利用券助成事業について

- ・移動手段を持たない高齢者への移送手段として、令和3年度より実施しています。初年度は、75歳以上の免許を待たない高齢者に対し12,000円の利用券の交付を行っています。4年度には、年齢条件を拡大し、70歳以上の免許を持たない高齢者に、また5年度からは、免許を持っている75歳以上の高齢者にも夜間や雨天時の外出支援のため半額の6,000円分のタクシー利用券の交付を行っています。
- ・令和6年度の実績は、事業費13,170,500円、利用率53.7%となっています。

2. 温泉入浴券助成事業（にこにこ長寿入浴券交付事業）について

- ・高齢者の健康増進やふれあいの機会の促進を目的として、平成22年度から町内在住の65歳以上の方を対象に年間2枚の温泉入浴無料券の交付を行っています。
- ・2年度には新型コロナウイルス感染症の影響から利用率28.2%まで落ち込みましたが、6年度は43.8%まで回復しました。

5月8日 教育委員会の所管事務調査を行いました

1. GIGA スクールにおけるタブレットの活用について

- ・令和2年度から「GIGAスクール構想」を受け、児童生徒一人につき1台のタブレット端末（1stGIGA端末）を配布しています。
- ・運用開始から5年を経過し、7年10月から新機種（2ndGIGA端末）に移行の予定です。



生徒用情報端末

2. 不登校について

- ・不登校の基準は、学校の欠席日数が30日以上です。
- ・不登校対応
 - 1) 校内支援センター、総合文化会館、サテライト会場の活用
 - 2) スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用
 - 3) 「未来へつなぐ確かな一歩推進事業」を実施し、関係機関と連携して学校復帰を目指します。

3. 階段昇降機について

- ・肢体不自由児童生徒がいる学校の階段に、安全に昇り降りすることができる階段昇降機を設置します。
- ・転倒や転落事故を防止し、階段の移動が簡易となります。昇降の際には介助者の付き添いが基本となります。

4. 屋内運動場空調機について

- ・波佐見中学校体育館に屋内競技、行事における熱中症対策として空調機の設置を行います。
- ・指定避難所であることから、緊急防災・減災事業債（3割負担）を活用します。
- ・先行事例を参考に視察を行い、体育館は構造的に断熱性能が劣り冷暖房効率が悪いという事例があり、熱中症対策としては十分効果的な「大風量スポットエアコン」を設置予定です。

4月28日 税務財政課の所管事務調査を行いました

税務財政課は住民税班・固定資産税班・財政管財班に分かれ、町税の課税徴収やふるさと納税、入札契約業務などを担っています。

今回の調査では、特別土地保有税の廃止予定や入札の公平性、財政管財班と企画情報課の役割分担などについて説明を求めました。

令和7年度事業として定額減税への対応や固定資産税業務の電子化、ふるさと納税の拡充とPR強化が進められます。

委員からは、既存事業の見直しを含めた評価への財政課の関与強化や、ふるさと納税への依存リスクを見据えた人口増施策の必要性が提起されました。

ふるさと納税では波佐見焼の返礼品が好評ですが、全国的な競争が激化する中、事業者と連携し、更なる寄附額の確保に向けた積極的な取り組みを期待します。

5月19日 企画情報課の所管事務調査を行いました

企画情報課は、企画班と電算情報班の2班で構成され、町の総合計画や定住促進、広報広聴、空き家対策、国際交流など多岐にわたる業務を担っています。近年では、デジタル施策の推進やInstagramによる情報発信など、町内外への広報力強化も重要な役割です。

令和6年度は、地域振興事業補助金の13件実施、定住促進による社会増74人の確保、町ホームページの全面リニューアル、住民向けデジタル研修の開始、空き家実態調査への着手など、多角的に事業が進められました。

委員からは、将来的な少子化・人口減に備えた定住施策の継続や、各課と連携した政策立案の重要性が指摘されました。

委員長コメント

5月末、町建設業組合の代表者と意見交換を行いました。全国的な賃金上昇により、建設業に従事する人材を確保すること、そして定着させることがますます困難になっているとのことでした。道路や水道、そして公共施設など、町のインフラを維持するために、現場で汗を流していただく方のご苦労には改めて頭が下がります。



町Instagram

本委員会では、第2回議会定例会（6月）提出議案等について審査を行い、無事に11日間の会期を終えることができました。

具体的な協議事項については、各常任委員会等で報告されますが、主な審査事項と今後の予定について下記のとおり報告します。

<主な審査事項>

- 1 町長提出議案について（全13件）
 - ①7年度一般会計補正予算（第1号）について
 - ・農業経営支援事業費補助金、地域公共交通確保維持改善事業費補助金、講堂空調機設置事業費、中学校給水管修繕工事費 他
 - ②財産の取得について
 - ・小中学校児童生徒用情報端末（1,340台分）
 - ③条例の一部改正に係る案件について（2件）
 - ④専決処分案件について（6件）
 - ⑤報告案件について（3件）
- 2 町政に関する一般質問通告書等の審査について
定例会で行われる一般質問は、「議会会議規則 60 条」と「議会運営の申し合わせ」により町の一般事務について議長の許可を得て質問を行っています。
6月定例会では10名の議員が町政を問いました。本運営委員会では、提出された一般質問通告書や画像データ、新聞折込用原稿の審査を行いました。
- 3 通告書や画像データの提出時間の変更について

<今後の予定>

- 1 議会モニターに関わる事項について
- 2 議会と語ろう会について

今年度の「議員と語ろう会」は、秋の開催を考えています。昨年度の反省等をもとに開催日や開催場所等について協議し、議会活動の報告と町民皆様からのご意見等を聞かせていただき、今後の議会活動に活かすことができるように計画を進めてまいります。



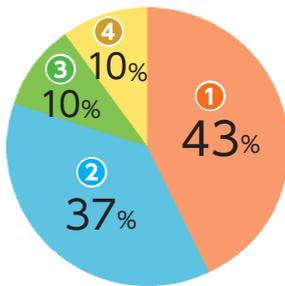
昨年の「議員と語ろう会」

米価高騰 “緊急アンケート” を実施!!

昨年からの米価の高騰は、全国的に大きな社会問題となっています。
本町においても影響があるのではないかと考え、6月上旬にアンケートを実施しました。
放課後児童クラブの保護者116名にご回答いただきました。ありがとうございました。

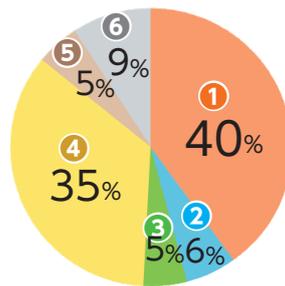
アンケートの結果

Q1 米価高騰の影響は



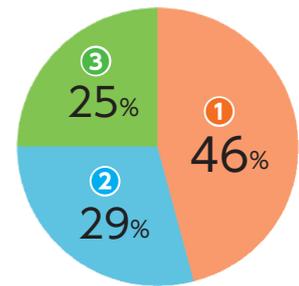
- ① 大きな影響がある
- ② やや影響がある
- ③ ほとんど影響がない
- ④ 影響はない

Q2 米を購入する際重視していることは



- ① 価格
- ② 産地
- ③ ブランド
- ④ 国内産であること
- ⑤ 新米であること
- ⑥ その他

Q3 米価高騰の具体的な対応は



- ① 少しでも安い米をさがしている
- ② 消費を減らしている
- ③ パン等で代替している

ご意見

- 波佐見の米を町内で消費できるような仕組みを整えてほしい。
- 農家が農業を続けられるよう、安くではなく適正な価格にしてほしい。
- 実家で米を作っているのだから、今のところ影響はない。農家の高齢化が進み、更に米不足になるのではないかと思う。
- 米不足は食料難につながるのでは、と先々への不安が消えない。
- 卵や子どものお菓子の購入を控えたり、親も一食抜いたりしている。
- 主食の米を量を気にせず子どもに食べさせられないのが悲しい。
- 今までが安すぎたのではないか。賃金が上がれば少々高くても買えるはずだ。
- 生産者に適正な対価が支払われているか。価格の仕組みを明確にしてほしい。
- なぜ高いかわかれば、高くても納得する。

集計を終えて

本町には農家も多く、大きな影響はないのではという予想に反して、苦勞されているご家庭は多いようです。子どもの食に関しては、他の市町に先駆けて給食費の無償化を実施していますが、この厳しい状況をふまえ、議会として何ができるか検討を重ねてまいります。

令和7年6月 定例会の主な議案審議

令和7年波佐見町一般会計補正予算(第1号)

可決

補正額	9,500 万円の増額、補正後の総額	104 億 9,500 万円
定額減税補足給付金事業		5,270 万円追加
不足額給付	1700 件分	
地域公共交通確保維持改善事業費補助金		2,000 万円追加
共創モデル実証運行事業費補助金		
(バス料金のキャッシュレスデジタル化、車内放送など)		
農業経営支援事業費補助金	29 件受付	300 万円追加
講堂空調機設置事業		750 万円追加
移動式冷暖房空調器具設置		



令和6年度波佐見町一般会計補正予算(第9号)(専決)

承認

補正額 1 億 8,900 万円の減額、補正後の総額 104 億円

財産の取得について

可決

財産の種類：小中学校児童生徒用情報端末
数量等：コンバーチブル型 PC、1,340 台
取得予定額：56,601,600 円
契約の相手方：扇精光ソリューションズ（株）
代表取締役 松尾隆宏



生徒用情報端末

6月
定例会

10人が登壇 一般質問



一般質問の議員別動画はコチラから。6月定例会の動画リストが表示されます。

ページ	議員名	質問項目	ページ	議員名	質問項目
8	おかむら たつ ま 岡村 達馬	・波佐見焼の伝統と文化保持	13	わきざか まさたか 脇坂 正孝	・寄贈いただいた貴重な資料 ・図書館を利用する環境の充実 ・孤独死、孤立死
9	たぞえ ゆう き 田添 有喜	・農業振興 ・教育行政 ・災害対策	14	みついし たかし 三石 孝	・見守り支援事業 ・農業振興 ・公共施設の整備
10	おかむら ま ゆ み 岡村真由美	・米価高騰の影響と減反の状況 ・波佐見高校への支援 ・こども家庭センター	15	まえだ ひろし 前田 博司	・災害時における避難所 ・各地区の公民館
11	じょうご ひかる 城後 光	・新庁舎建設事業の総括及び 今後の庁舎活用策	16	ふくだ かつや 福田 勝也	・ふるさとづくり応援寄附金、 及び基金の活用
12	よこやま まさよ 横山 聖代	・GIGAスクール構想の検証 ・絆の日 ・食の魅力向上と名物料理の 開発による地域活性化	17	きたむら きよみ 北村 清美	・災害対策 ・町政運営

審議された案件

議案
10件

報告
3件



議案等別審議
結果はこちら

※提出された下記案件は、全て全会一致で可決されました。

		審議の結果	
6月定例会	補正予算	■ R 7 一般会計（第1号）定額減税補足給付金不足分、町営バス経費の追加	可決
		■ R 6 一般会計（第9号・専決） ■ R 6 特別会計 国保（第4号・専決）、後期高齢（第3号・専決）、介護（第4号・専決）	承認
	条例	■ 税条例の改正（専決） ■ 地域経済牽引事業にかかる固定資産税の免除条例の改正（専決）	承認
		■ 個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部改正 ■ 水道条例等の一部改正	可決
	財産	■ 小中学校生用コンバーチブル型PC（2nd GIGA端末）の取得	可決
報告	■ 私債権管理条例に基づく債権放棄 ■ R 6 年度一般会計予算繰越明許費繰越計算書 ■ R 6 年度一般会計予算事故繰越し繰越計算書		



伝統工芸士の作品展示場を

岡村 達馬 議員

町長 十分に検討する

陶芸の館から伝統工芸士や現代の名工を紹介する部屋が閉鎖されてから数年が経つ。皆さんは波佐見焼の「この技、この火絶やすな」の思いで地道に励まれている。

議員 伝統工芸士の皆さんは波佐見焼を背負って伝統的技術の承継をされている。しかし、後継者が育たない厳しい環境もある。支援等はどうなっているのか。

町長 皆さんには産業、文化の担い手として活躍をいただいて感謝している。波佐見焼後継者育成事業等に支援をしている。

議員 今回の工芸士展は工芸士会45周年記念会員展であった。本来なら町は主催者側、あるいは少なくとも後援をするべきではなかったのか。

町長 後援等を行っていない。今後はやっていく必要があるかなと考えている。

議員 伝統工芸士、技能士又は現代の名工等の各人数は把握されているのか。

町長 技能士は14名であるが、現代の名工については把握していない。

議員 正確な人数を把握して支援をお願いしたい。また、法人事業所などへの支援は厚くなされているが、個人事業主には対応が厳しい所がある。伝統工芸士は1974（昭和49）年に後継者不足による伝統的工芸品産業の需要拡大を図るため始まったものである。技術を取得した人への支援はどうなっているのか。

町長 後継者育成については工業組合の方で行っている。

九州北部の焼き物産地では、地場産業が衰退する危機のある中、技術の承継と更なる発展を目的として、伝統工芸士などの素晴らしい作品を展示する施設があり、広く一般に公開されている。

議員 波佐見焼の承継あるいは新しい技術を創出されている伝統工芸士などの皆さんは町の貴重な財産でもあり、誇りでもある。なぜ展示場を閉鎖したのか。

町長 建築基準法や消防法の問題から皆さんの展示場を閉鎖させていただいた。今後は伝統工芸士や作家の皆さん方へ案内できるシステムも必要と思うので十分に検討したい。



整然とされている三川内焼伝統産業会館内部



作品と受賞歴を紹介する小石原焼伝統産業会館



伝統工芸士などを紹介する部屋の閉鎖理由が、建築基準法や消防法であれば、陶芸の館の重要なインシデントに関わる事。対応を急ぎ展示場を再開されたい。



職場の熱中症対策義務化への対応は



町長 チラシの配布や会合時に周知する

田添 有喜 議員

米不足が続く中、国民の農業振興への関心が高まっている。しかし、課題はまだ山積している。

議員 法の改正により熱中症対策が義務化された。農業法人に対する熱中症対策は。

町長 各農業法人の総会時にチラシを配布するなどして周知している。また、警戒アラート発生後、防災無線を通じて町民に知らせたい。

議員 義務違反の罰則もあることから、マニュアル的なものを作成し各法人へ提供しては。

町長 農協とも協議しながら検討したい。

議員 イノシシ侵入対策として設置した山間部のワイヤーメッシュ柵の今後の対応は。

町長 耐用年数の14年を経過した柵について、更新期を迎えた段階で対応する。

議員 農作物の高温障害対策への支援は。

町長 県が新たに創設した「ながさき農業気候変動総合対策事業」に取り組むことにしている。今後、県や農協等と連携して対応したい。

児童生徒を取り巻く教育環境の変化は著しいものがあり、全国では多種の取組みが行われている。

議員 本町の課題は、児童生徒の学力向上である。本町の教育費は他市町より充実しているにもかかわらず、なかなか学力の向上が見られない。教育委員会から具体的な方策を講じる必要があると思うが。

教育長 子供の現状を踏まえて、子供の実態に応じた手だてをとることが学力向上につながると考える。

議員 今年度の全国学力・学習状況調査の中学校理科で、新方式としてタブレットによる出題・解答が行われた。本町ではどうだったか。

教育長 特に問題なく実施できた。

議員 不登校対策として「校内教育センター」や「教育支援センター」の設置は。

教育長 設置の考えはない。

議員 今年度の始業式は、県内のほとんどの市町村は4月7日であった。なぜ、本町は、4月8日だったのか。

教育長 年度初めの準備期間が短く、教師の準備期間を確保するために8日始業とした。

令和3年8月の豪雨は本町に大きな被害をもたらした。災害危険個所の点検とその対応はとても重要である。

議員 支障木や電柱、街灯などの点検と安全確認は。

町長 災害箇所の点検項目には挙げていないが、支障木については大変危惧している。今後、関係機関と連携して対応していきたい。



支障木



傾いた電柱



・教育の主役は、児童生徒である。そのためにも保護者や児童生徒の声を大切にし、休業日の設定を行うべきである。
・農業経営者支援事業のさらなる充実を強く願う。





米を直ちに増産できないのはなぜか

岡村真由美 議員

町長 水が足りないのも大きな要因かと

急激な米価の高騰は、本町においても町民生活に大きな影響を及ぼしていると思われる。

波佐見町の山林・農地面積の概況

総面積	5,600ha	
山林	3,500ha	62.5%
農地	700ha	12.5%

議員 米の作付面積の推移はどうなっているか

町長 近年は毎年約350haの水田で作られている。減反政策は1971年に始まり2018年には廃止されたが、その後も生産調整が続いている。1970年には769haある水田のうち703haに作付けされた。

議員 学級給食用の米はどうなっているか。

教育長 給食用の食材は長崎県学校給食会から一括購入している。昨年は13,680kgを10kg3,390円（今年は6,550円）で購入したがすべて新米。その中には県産米や波佐見町産米2,800kgも含まれていた。

議員 米だけでも町内の農業法人から調達できないか。

教育長 そういった意見等があれば検討していきたい。

議員 農業の後継者を育成するために、町が今、力を入れて進めていることは何か。

町長 農業をどう維持し後世に繋げていくかを検討し、今頑張っておられる農業者を支えたいとの思いで、町独自に農林業経営支援事業を立ち上げて支援している。

町は波佐見高校存続に向けての支援を令和3年から始め、一定の成果をあげている。しかし依然として厳しい定員割れの状況は続いている。

議員 波佐見高校への支援策に変更点があるか。

町長 未来寮への支援は一旦終了し、未来寮を加えた他の寮についても幅広く支援できるようにしていく。

議員 町内から地元の波佐見、川棚、有田工業高校に進学する生徒数が3割を切っている現状をどう捉えているか。

教育長 進路選択は本人と家庭が決めることであり、こちらがどうこうすることではない。

令和7年度 波佐見高校 出身中学別 入学生徒数

		定員	全体	波中出身	川中出身
波佐見高校	普通科	60	37	12	0
	商業科	40	13	1	5
	美工科	20	11	0	0
	合計	120	61	13	5

議員 県外から生徒を集めるダイナミックな対策の転換はできないか。例えば「地域みらい留学」に参加するなど。

町長 受け入れ態勢を整えるには、新たな寮が必要になってくるが、資金的にその余裕がない。

旧庁舎の一部を改修して「こども家庭センター」が完成し、2月の開所式から3か月が経過した。

議員 工事費の総額はいくらだったか。

町長 2億6,640万円になった。

議員 開所式で「こどもまんなか応援サポーター宣言」がなされたが、こどもとは何歳から何歳までか。

町長 (胎児から) 高校・大学生までと考えている。

議員 島原市のように、この施設を高校生も含めた子どもの居場所にしてもらえないか。

町長 将来的には、高校生に限らず小中学生にも来てもらえる施設にしていきたいと思っている。

議員 他の市町にも誇れる施設である。土日や祝日にもフル稼働できるような対策を講じる考えはないか。

町長 安全面が気になるが、改善を重ねながら利用の幅を広げていきたい。



こども家庭センター「よりそっと」の開所式



出生数を維持できたとしても、町外の高校に進学する生徒ばかりになったら、将来、窯業や農業を支えてくれる若者が果してどれくらいいるのだろうか。



もっと町民が使いやすい庁舎に

町長 幅広いアイデアを募りたい

城後 光 議員



役場新庁舎建設事業は、平成26年度から計画に着手され11年の年月を経て、周辺整備を含めた事業が完了した。高度経済成長時代に、多くの本町公共施設が建設されている。このため庁舎建設事業は、今後の公共施設更新にとって大きな指針となりうる事業である。

議員 庁舎建設事業を振り返り、最も困難であったのは何か。

町長 計画の根本である建設検討委員会における意見集約は難しかった。まちづくりの観点から、なぜ庁舎建設が必要か、理念などを含めての委員間での意識統一は大変困難であった。

議員 町の公共施設は1980年代以降に建設されたものが多く、今後その大半が更新時期を迎え、建て替えもしくは長寿命化に向けた工事が必要な時期に達する。今後に向けた方針を明確にするべきと考えるがどうか。

町長 来年度、新しい公共施設等総合管理計画の策定を予定している。この計画作成にあたり、施設の廃止・統合そして、建て替えについて早め早めに判断を行なっていかなければならない。

議員 設計から工事にあたり、事業者と発注者双方で2週間に一度定例会議を行なっている。そのメリットは。

町長 両者での意見一致を図り、庁舎の機能面、利便性向上やコストカットにつながったと考えている。

議員 現在の新庁舎の課題をどう捉え、対応策を考えているか。

町長 新庁舎での業務開始後、来庁者が迷われる場面が生じているのは事実。スムーズな窓口対応に向けた案内方法を検討している。例えば、担当課をまとめた総合窓口の設置などを検討している。



幅広い活用が期待される2F 展望テラス

議員 かわたな・はさみタウンバスが運行開始され、役場玄関がバス停となった。気が付きにくいとの声に対して、改善策の検討は。

町長 タウンバスや乗合交通の利用ハブ拠点として、庁舎は大きな役割を果たす。バス停の案内等をわかりやすいように、公共交通全体を再構築を行う国の補助事業「共創モデル実証事業」において検討を行なっていく。



庁舎のあり方を検討するために3年以上を要している。学校・町営団地のあり方も早めに提起してほしい。





絆の日アンケートしなかった理由は

教育長 多角的な意見収集を重視した

横山 聖代 議員

一人一台タブレットを配布してから5年が経過し、セカンドGIGAに移行することから、GIGAスクール構想の成果や課題検証をする必要がある。

議員 本町の教育現場にどのような影響を与えたか。

教育長 データや写真、動画の教材を活用することで、分かりやすい授業が展開されるようになった。また欠席遅刻連絡、出欠確認のデジタル化等により、教職員の負担軽減にもつながった。

議員 児童生徒に対しては、どのような成果が確認できたか。

教育長 従来は、同じ内容を同じペースで進めることが多く、個々人の理解度に応じたきめ細かな指導には限界があったが、AIドリルの活用等で個々に応じた学習が当たり前となってきている。また、児童生徒の学習意欲の向上にはつながった。

議員 デジタル先進国等では、学力・集中力低下が問題視され、脱デジタルへ舵を切りつつあるが、日本はICT活用が推進されている。文科省の実証事業報告書を見る限り、学力向上の効果は名言されていないが、課題学習型学習や協働的な学びに利点ありとある。基礎学力向上の目的が、ICTという手段の推進の陰に埋もれてしまわないか危惧している。今後ますます進むICT活用の中で、本町児童生徒の読解力・書く力の向上をどのように図っていくのか。

教育長 現在のAIドリルには、その子の能力に応じた問題を提示することができるため、基礎学力定着にも有効に活用できると考える。しかし、アナログ的な書くこともバランスよく指導している。

「絆の日」が始まって3年が経過した。本年は学校を開放し、陶器市見学・お弁当作り・絵画教室・野球教室をされたが、評価するためのアンケートが未だ実施されていない。

議員 本年実施したプログラムに参加できた子、参加できなかった子がいる中、不公平感が否めない。いっその事、絆の日は皆登校し、好きなプログラムに参加できるようにすればいいのでは。

教育長 本来の絆の日の目的である、自立した子供の育成のため、休みの日の過ごし方を話し合い、自主的な体験的学習休業日とする趣旨や願いが変わってくる。

議員 改善の余地があるため、PDCAサイクルやOODAループの観点からもアンケートの実施を先生方、保護者、児童生徒、学童、陶器市関係者にすべきでは。

教育長 保護者等へのアンケートはデメリット部分もあり、現段階では始めようとは思っていない。

観光の楽しみに食があるが、本町にはこれといった名物料理がない。

議員 名物料理の開発計画やこれまでの取り組みは。

町長 H23～27に、絶品グルメグランプリ。郷土料理や、イノシシメンチカツやお米のチュロスのレシピ本を制作したが、名物料理として認知されるまでには至っていないのが現状。

議員 名物料理をブランド化する際の課題は。

町長 料理に使用できる地元食材の安定的な定量の確保が大きな課題。農業者、飲食店の意見を伺いながら検討したい。



玉ねぎのHASAMIYAKI



大根のHASAMIYAKI



「絆の日」の事業評価はどのようにするのだろうか？

多角的な視点の意見を聴取するにもアンケートがいいのでは。



図書館をより身近に利用しやすく



脇坂 正孝 議員

教育長 看板設置、HPの改善等図る

図書館は「知識や情報の拠点」として、本町の貴重な教育・文化施設である。しかし、現状は総合文化会館の奥に位置し、また、面積も狭く利用しづらいとの声を聞く。図書館は町民にとってより身近な施設であるべきである。

議員 図書館協議会の開催状況と主な協議事項はどうか。

教育長 直近では6年度末に開催、6年度の利用状況等の報告や現状等について共有した。

議員 利用者数や貸出冊数の推移はどうか。

教育長 5年間の平均として、貸出した人数は約6千人、貸出冊数は約2万冊である。

議員 図書館の場所が分かりにくい。看板の設置と返却ポストを役場等に新設できないか。

教育長 総合文化会館玄関に視認性の高い看板を設置し、館内に案内表示を新設する。返却ポスト新設の予定はない。

議員 ホームページの改善は。

教育長 蔵書検索機能の制度改善など、いくつかの修正作業を鋭意進めている。



図書館は総合文化会館の奥にあります。

議員 閲覧室を拡張すべきである。

教育長 単にスペースの拡張だけでなく、学習スペースの確保、多目的空間の創出、既存施設の老朽化対策など、多目的な視点からの検討が必要である。図書館全体の将来像を踏まえた上で、関係部署と連携し、幅広く協議を進めている。

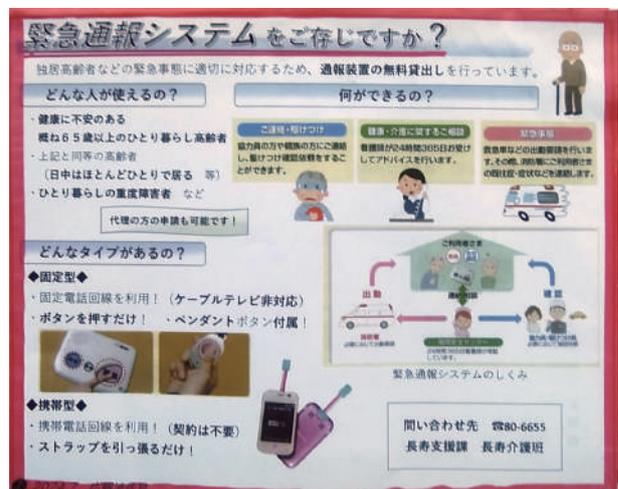
2024年に死後8日以上経過して見つかった人（孤立死）は、全国で約2万2千人との報道があった。痛ましく残念なことである。

議員 孤独死・孤立死を防止するための対応策はどうか。

町長 現状の主な取組みとして、包括支援センター、シルバーボランティアセンターや民生委員が訪問するほか、緊急通報システムの活用などが効果的である。

議員 緊急通報システムは利用率が低いように思う。普及拡大のため、いきいき大学で説明できないか。

教育長 今年度は予定が決まっているので、どのタイミングで行えるか検討したい。



緊急通報システムの貸出案内
(広報波佐見 2024年7月号)



図書館の整備に向け、迅速な対応は心強い。

閲覧室の拡張などは、文化会館全体のリニューアルと併せて、早期に整備を進めてほしい。





改善センターの空調機改修を急げ

町長 振興計画にあげて予算化する

三石 孝 議員

少子高齢化の進行により独居高齢者等も増加しており、緊急時の対応が不安視されている。

議員 見守り支援事業にはどのようなものがあるか。

町長 24時間対応型の緊急通常システムや行方不明対応のQRコードによる位置情報見守り事業がある。



緊急通報システム



携帯型緊急通報システム

議員 対象者は、限定されているのか。

町長 基本的には、一人暮らしの高齢者及び身体障害者とあるが、それ以外についても適正に考慮する。

米不足問題で、農業が注目されているが、高齢化や農業機械の買い替えが出来ず離農者が増えていると聞く。

議員 小規模農林事業の本年度予算はいくらか。

町長 600万円である。

議員 予算がオーバーする事態になったときは。

町長 緊急の場合や災害復旧に要する場合は、補正で対応する。

議員 農業経営支援事業の対象者は。

町長 農業収入者が対象なので家庭菜園の場合は検討を要する。

議員 機械購入の補助率が50%以内となっているが、なぜ3分の1になっているのか。

町長 4月にスタートしたが、2週間で当初の300万円の超える勢いだったので、できるだけ多くの農家に利用して頂きたいということで補助率を下げた。

議員 補助の対象は、農業機械の購入と農業用機械の資格そしてスマート農業の導入とあるが、予算の振り分けを行っているのか。

町長 あくまでも全体での予算であり、個別の予算枠は設けていない。

議員 認定農業者に対しては、補助率を5%加算するとあるが、認定農業者も高齢化で減少傾向にあり、更なる上乗せが必要ではないか。

町長 認定農業者は、国の事業・県の事業を受けることが出来る。まずは、一般の農家に広く行き渡るような形を取った。

議員 補助回数は、同一年度において1営業態当たり1回限りとある。年度が替わればまた申請できるか。

町長 可能である。

議員 4月の1日からスタートしたに拘わらず、約2週間で予算がパンクの状態だった。広報はさが一般家庭に届くのが20日前後である。情報の取得時期の差異で農家に不公平感が漂っている。払拭するには。

町長 今回の予算の経緯について窓口で説明を行い、来年度の予算の参考にさせていただく予定である。

議員 農業者の期待に応える素晴らしい制度であることは言うまでもない。制度の継続と可能であれば9月の補正で更なる予算化出来ないか。

町長 次年度に向けて要望を聞きながら、制度の見直しも含め検討を行う。

農村環境改善センターのホールにおける空調機の騒音について、改修を強く求める声が多い。

議員 築45年で老朽化も進んでいるが、利用状況は皆実地区だけに留まらず、波佐見町福祉協議会や駄野地区土地改良区や赤十字にボランティアセンターなど数多くの事務所が入っている。また、選挙の際の公営施設に指定されているし、特に災害時の指定避難所となっている。早急に改修出来ないか。

町長 改善センターは、長寿命化計画により令和元年に屋上防水工事、令和4年に外壁改修を行っている。

ホールの空調機については、専門家と協議を行い振興計画に挙げて予算化したい。



改善センターの空調改修は直ちに行い、農業経営支援事業の予算不足額は、9月の議会で予算化する。町長がよく口にする「できない理由よりできる方法を考えよ」である。



避難所の表示などは十分か



前田 博司 議員

町長 避難所等への誘導表示は検討する

近年、全国各地で大雨やゲリラ豪雨に伴う災害発生が多くなっている。

避難準備情報を耳にしても『まだ余裕があるだろう』など被害予想ができていないケースがみられる。心構えと備えが大事だ。

議員 指定避難所以外の避難所などにはどのようなものがあるのか。

町長 町が指定する避難所のほかに、親類、知人宅や宿泊施設に避難すること自体は問題ない。また、自宅周辺に差し迫って危険性が少ない場合など、自宅での安全が確保される場合は必ずしも避難所に避難しない、いわゆる「自宅避難」でよいと判断しているか。

議員 自治会や事業所における避難訓練や防災意識の醸成を図る啓発はできているか。

町長 「支えあいマップ作り」、「避難訓練」、「防災講習会」などを通じて、避難経路の把握や防災意識の醸成を進められている。

また、各担当課においても、自治会役員やボランティアを対象とした防災研修会も定期的に行い、自治会訓練にも出向いて連携を深めている。加えて、事業所については物資の提供などを目的に災害時応援協の締結を進めており、事業所を含めた啓発を行い連携の拡大を進めたいと考えている。

議員 避難所の表示や避難経路の表示板は十分か。

町長 指定避難所などの表示についてはそれぞれの施設の玄関先等表示している。

避難経路の表示板については現在のところできていない。必要性は認識しているので今後より効果的な方法を検討していきたい。



避難所の表示板

各自治会の公民館や集会所は地域住民の憩いの場や交流の場としてだけでなく災害時の避難場所としても重要な役割がある。しかし施設の維持は困難となりつつある。

議員 公民館等の老朽化の状況は把握できているか。

町長 多くの施設が今後、築50年を迎えることになり、一部施設では長期的な維持補修の時期になる。今後の自治会の活動を見据えた場合、施設の在り方についても、規模や統廃合について、自治会内の議論が行われることを期待するとともによりよい議論と健闘ができるよう自治会に対し情報提供や相談に応じたいと考えている。

議員 建て替えに対する現在の補助制度は十分といえるか。

町長 単独事業の「地域振興事業補助金」が補助金限度額で地域により510万円から680万円となっている。その他に、一般財団法人自治総合センターが実施している「コミュニティセンター醸成助成事業」がある。これは、一定の条件のもと事業費の5分の3以内で補助限度額が今年度から500万円増の2,000万円となっている。



老朽化した公民館



自治体の「公助」避難所の設置、救援物資の配布などには限界があるため、あくまで「自助」「共助」が大事であると感じている。





応援寄附金の積極的な活用を

福田 勝也 議員

町長 財政当局と協議したい

平成29年度から順調に推移している「ふるさとづくり応援寄附金」は、令和3年度に20億3千万円に達し、現在においても約18億円の寄附額となっている。

このことは、本町の事業者の売上にも大きく寄与しているだけでなく、町政運営においても多様な事業の財源に活用されている。

議員 ふるさとづくり応援寄附金の令和6年度実績と、「ふるさと納税3.0」の活用状況はどうか。

町長 寄附額は、59,440件、18億2,686万200円となっている。

「ふるさと納税3.0」については、2つの事業合わせて57件、228万8千円の寄附がされている。加速化、集客の面から波佐見町のポータルサイトから、より大きなサイトへ移転させ実施する予定である。

議員 「ふるさとづくり応援基金」を活用するにあたっては、どのような基準、要件としているのか。

町長 条例の定めにより、「ふるさとを元気に楽しくする事業」、「未来に伝えたい伝統文化の保存、整備に関する事業」、「懐かしい景観、新しい町並み整備に関する事業」、「次世代を担う子供たちの健全育成に関する事業」、「その他町長が必要と認める事業」の5事業とし、その目的の経費の全部または一部に充てている。

事業実施が限定的な、いわゆる臨時的事業を中心にその財源として活用している。

議員 これまで46億円の基金を活用しているが、その成果、評価はどのように考えるか。

町長 魅了あるまちづくりに活用し、移住定住に繋がっているものと評価している。

議員 各事業において、「一般財源」、「ふるさとづくり応援基金」の活用条件、判断基準はどのようにしているのか。

町長 町の予算編成方針として、継続して固定的に支出される経常経費と、臨時的経費に分類し、充当可能な事業（臨時的経費）を「ふるさとづくり応援基金」に活用し、それ以外は、「一般財源」や「財政調整基金」を活用している。

議員 基金の活用として振り分けられた事業としてではなく、「元気なまちづくり」のためにどのような支援、事業が必要なのかの観点から、各担当課で基金の有効活用となる事業を進めてもらいたいと思うのか。

町長 各担当課から積極的に出れば振興実施計画や、当初予算の協議の中で財政当局と詰めていきたいと思う。



ふるさとづくり応援寄附金の推移



ふるさと応援基金は多様な事業に活用され、移住定住にも成果を上げている。充実した補助事業、施設の環境整備を計画し、他自治体との差別化を図ってもらいたい。



OBによる自衛消防隊を



北村 清美 議員

町長 地域全体で考えたい

今年2月に、岩手県大船渡市で発生した山林火災では約3.370haを焼失した。消防庁と林野庁は検討会を開き、消火活動を検証し、火災予防策を夏までにまとめるとある。

本町も地震・豪雨災害などに加え、山林火災への対策も考えなければならない。

議員 避難所の備品の状況は。

町長 国の指針に基づき、備品は準備している。

議員 警察と消防との密な連携は。

町長 連携は取れている。

議員 消防団の定員と充足人員は。

町長 定員は330名で現団員は226名。

議員 定員不足をどうするか。

町長 消防団OBを中心に地域全体で考える。

議員 火災警報発令は。

町長 今後、発令基準を明確にする。



消防団



消防団

佐世保市では来年度より水道料金（約28%）値上げする。本町も値上げを考えざるを得ない時が来ている。

議員 本町と佐世保市の耐震水道管の進捗率は。

町長 本町は約13%で佐世保市は25%。

議員 本町の鉛給水管は。

町長 本町にはない。

デジタル社会の進展、格差の拡大、不安定な政治など、世の中は常に変化し、これまでの常識が通用しない時代になっている。だからこそ「波佐見町の未来を守り、育てるために何をするか」との観点で、新たな発想、軸の発見によって予測困難な未来への心構えを町民のみなさんとともに考えることが大事である。

理想の世界を描き、現状を把握し、そのギャップを問題点に捉え、解決の糸口を見つけることが大変重要となってくる。

議員 四方遠方に目を配り、波佐見町のサブイブ（生き残り）をかけた「かじ取り」を今後どう行うか。

町長 私は波佐見町の首長として、地域の未来を見据えた「かじ取り」を行うことは重要な使命であり、責任でもあると考える。

そのためにも、今後とも次世代を担う子育て世代に寄り添う施策の充実を図りながら、副町長、教育長や管理職、職員と意思疎通を図り、力を合わせて町政運営を行ってまいりたい。

つぶやき

願わくは、答弁書に記載されているような文章を、自分の言葉で力強く発言してもらいたかったが・・・。



傍聴者の声



❖ いただいたご意見を紹介します。❖

- ① 車椅子のバリアフリーは、傍聴席入口までは設置されていますが、傍聴席にはありません。最前列の一角を車椅子スペースとして、利用できればよいと思いました。(40代)
- ② 質問や答弁に定例的なものが、少し目立ったような気がした。もう少し、数値的に議論評価ができるとういと感じました。(40代)
- ③ 一般質問に使われた資料は、どこかで公開されるのでしょうか。(40代)
- ④ 農機具の購入補助金は、14日くらいで予算額に達したと答弁にあった。9月議会予算を追加してほしい。兼業農業者が多いため、補助金が必要です。(60代)
- ⑤ 一般質問は動画 YouTube にアップされているが、議案審議はアップされてない。なぜでしょうか？(40代)

次回定例会は9月3日から9月25日までを予定しています。

◆ 長崎県へ要望書提出 ◆

長崎県教育委員会は県立高校再編に向け、令和8年度内に再編の大枠となる大綱を示す方針を明らかにしました。県立波佐見高等学校も再編の対象になる可能性があることから、8月7日に町長や町議会議長が連名で、長崎県知事、県教育長及び県議会議長に要望書を提出し、主旨を説明する予定です。

編集後記



晩夏となりましたが、今年の残暑も厳しいのでしょうか？地球温暖化が言われて久しいですが、なかなか歯止めがかかりません。その要因の一つに紛争や戦争による過大なエネルギー消費があると思います。平常時の何倍もの無駄なエネルギーが使われているのです。

生命や財産の保全と同様、重大さを考え、早めの停戦・終戦に踏み切るべきです。

町民の皆様には、体調管理に十分ご留意され、実りの秋を元気にお迎えください。(脇坂 正孝)

「議会だより」編集委員

委員長	岡村 真由美
副委員長	澤田 昭則
委員	前田 博司
	脇坂 正孝
	三石 孝

発行責任者

議長 尾上 和孝